

シラバス

令和5 年度

第 1 学年

昼間部(午後)

～ 柔整トレーナーコース(3年制) ～

学校法人 杏文学園

東京柔道整復専門学校

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1・2・3期	担当教員 白木 仁	
講義区分 基礎分野	授業科目名 総合基礎 トレーナー概論	7 単位	105 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復師としてだけでなく、社会人として必要な教養を身につけることを目的とする。
- ・スポーツ、アスレチックトレーナーに興味を抱き、学習に取り組んでいく。

【講義概要】

- ・スポーツに関する社会的背景を習得する。
- ・アスレチックトレーナーに関する素養を取得する。
- ・運動・スポーツの文化的特徴、運動スポーツの学び方、豊かなスポーツライフの設計についてを学んで行く。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・授業は単元ごとにプリントを配布

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	アスレチックトレーナー概論	講義
2	アスレチックトレーナー概論	講義
3	アスレチックトレーナー概論	講義
4	アスレチックトレーナー概論	講義
5	アスレチックトレーナー概論	講義
6	アスレチックトレーナー概論	講義
7	アスレチックトレーナー概論	講義
8	アスレチックトレーナー概論	講義
9	スポーツ科学	講義
10	スポーツ科学	講義
11	スポーツ科学	講義
12	スポーツ科学	講義
13	スポーツ科学	講義
14	スポーツ科学	講義
15	スポーツ科学	講義
16	スポーツ科学	講義

17	トレーニング科学	講義
18	トレーニング科学	講義
19	トレーニング科学	講義
20	トレーニング科学	講義
21	トレーニング科学	講義
22	トレーニング科学	講義
23	トレーニング科学	講義
24	バイオメカニクス	講義
25	バイオメカニクス	講義
26	バイオメカニクス	講義
27	バイオメカニクス	講義
28	バイオメカニクス	講義
29	バイオメカニクス	講義
30	バイオメカニクス	講義
31	バイオメカニクス	講義
32	バイオメカニクス	講義
33	アスレチックトレーナー概論	講義
34	アスレチックトレーナー概論	講義
35	アスレチックトレーナー概論	講義
36	アスレチックトレーナー概論	講義
37	アスレチックトレーナー概論	講義
38	アスレチックトレーナー概論	講義
39	コンディショニング	講義
40	コンディショニング	講義
41	コンディショニング	講義
42	コンディショニング	講義
43	コンディショニング	講義
44	コンディショニング	講義
45	コンディショニング	講義
46	コンディショニング	講義
47	アスレティックリハビリテーション	講義
48	アスレティックリハビリテーション	講義
49	アスレティックリハビリテーション	講義
50	アスレティックリハビリテーション	講義
51	アスレティックリハビリテーション	講義
52	アスレティックリハビリテーション	講義
53	まとめ	講義
54	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1期	担当教員 瀬谷 智美	
講義区分 基礎分野	授業科目名 総合基礎 アダプテッドスポーツ		2 単位 30 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復師としてだけでなく、社会人として必要な教養を身につけることを目的とする。
- ・障がい者について理解する。
- ・障がい者をとりまく社会を理解する。
- ・障がい者スポーツとパラリンピックを理解する。

【講義概要】

- ・現代日本と障がい者との関係を知る。
- ・障がい者スポーツの概要を知り、社会との共存を考察しともに生きていく社会を形成していく。
- ・障がい者に対する正しい理解と社会が果たす役割についてよく学び、そして考え、どのように共に生きていくかを考察していく。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・授業は単元ごとにプリントを配布

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	障がいについて — 身体障がい(脊髄損傷、脳性麻痺、切断)	講義
2	障がいについて — 身体障がい(聴覚障がい、視覚障がい)	講義
3	障がいについて — 知的障がい	講義
4	障がいについて — 精神障がい	講義
5	障がい者を取り巻く環境について — 障害者差別解消法	講義
6	障がい者を取り巻く環境について — 障害者差別解消法	講義
7	障がい者を取り巻く環境について — 障がい受容の過程	講義
8	障がい者を取り巻く環境について — 障がい受容の過程	講義
9	障がい者を取り巻く環境について — 障がいと社会環境(車いす利用者)	講義
10	障がい者を取り巻く環境について — 障がいと社会環境(脳性麻痺などによる運動障がい)	講義
11	障がい者を取り巻く環境について — 障がいと社会環境(義肢・装具)	講義
12	障がい者スポーツとパラリンピック — 代表的なパラスポーツ競技(陸上競技)	講義
13	障がい者スポーツとパラリンピック — 代表的なパラスポーツ競技(ゴールボール)	講義
14	障がい者スポーツとパラリンピック — 代表的なパラスポーツ競技(ウィルチェアラグビー)	講義
15	まとめ	講義
16	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2023 年度	1年生 第1期	川上 智志	
講義区分	授業科目名		
基礎分野	総合基礎 社会福祉		1 単位 15 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復師としてだけでなく、社会人として必要な教養を身につけることを目的とする。
- ・社会福祉に関する基礎的理解を得る。
- ・社会福祉に関する概要を学ぶ。

【講義概要】

- ・日本の社会福祉制度について学ぶ。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・授業は単元ごとにプリントを配布

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	社会福祉概論	講義
2	社会福祉概論	講義
3	生活扶助	講義
4	健康保険	講義
5	介護保険	講義
6	労災保険	講義
7	年金保険	講義
8	雇用保険	講義
9	まとめ	講義
10	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1・2・3期	担当教員 人間総合科学大学	
講義区分 基礎分野	授業科目名 総合基礎通信	4 単位	60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復師としてだけでなく、社会人として必要な教養を身につけることを目的とする。
- ・通常授業では接する機会が少ない項目に触れ、多方面での応用が利くようにする。

【講義概要】

▶生活習慣と健康

- ・健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関連性を再認識することを目的とする。
- ・生活習慣病、メタボリックシンドローム、アルコール、喫煙の健康影響について学び、生活と健康習慣の関係及び運動の意義と効果について、身体的、社会的な視点から説明できるようにする。

▶コミュニケーション入門

- ・医療、福祉の現場に限らず、コミュニケーション全般についてその概要を理解することと目的とする。
- ・コミュニケーションの一般的な理解を深め、その一部分として慰労、福祉分野におけるコミュニケーションも学ぶ。
- ・医療面接を学ぶ際の基礎知識として役立てるようにする。

【成績評価方法】

- ・人間総合科学大学が定めた時期に試験を実施し評価する。
- ・人間総合科学大学にて指定された課題を実施し、試験前に学習の確認を実施する。
- ・人間総合科学大学が作成した試験の結果にて、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

【授業の特徴・形式】

- ・人間総合科学大学による自宅での学習。

【教科書・参考書】

- ・生活習慣と健康 人間総合科学大学
- ・医療、福祉現場のコミュニケーション 三輪書店

【 講義の内容・日程 】

回	実施日	講義内容	備考
1			講義
2	6月	テキスト、課題配布	
3		以後、自宅にて学習する。	
4	7月	課題提出	
5	9月	試験を実施	
6		※試験にて合格点に達しない場合は上記の内容をやり直す。	

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1・2期	担当教員 西 健喜	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 解剖学①		2 単位 60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復師を志すにあたり、最も必要な運動器(骨・筋)の基本的な構造を理解すること。
- ・柔道整復師として基本となる骨・筋・関節・靭帯について、その重要性を認識し正しい知識を身につけること。

【講義概要】

- ・骨に関しては、各部位の構造や部位の名称・位置を取得し使用できるようになる。
- ・筋に関しては、各筋の起始部・停止部を、運動や方向の用語を理解し使用できるようになる。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・解剖学 医歯薬出版
- ・プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 医学書院
- ・分担 解剖学 1巻(総説・骨学・靭帯学・筋学) 金原出版
- ・カパンディ関節の生理学 I(上肢)・II(下肢)・III(体幹・脊柱) 医歯薬出版

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	解剖学総論・用語・靭帯の区分・骨格系総論	講義
2	脊柱・胸郭	講義
3	上肢帯・上腕	講義
4	前腕・手	講義
5	上肢の関節	講義
6	下肢帯・骨盤	講義
7	大腿・下腿・足	講義
8	下肢の関節	講義
9	脳頭蓋・顔面頭蓋	講義
10	頭蓋冠・頭蓋底・前面・側面・泉門・顎関節	講義
11	頭蓋骨の観察	講義
12	脊柱・胸郭の骨の観察	講義
13	上肢帯・上肢の骨の観察	講義
14	下肢帯・下肢の骨の観察	講義
15	まとめ	講義
16	下肢帯の筋	講義
17	大腿の筋	講義
18	下腿の筋	講義
19	足の筋	講義
20	下肢の筋まとめ	講義
21	上肢帯の筋	講義
22	上腕の筋	講義
23	前腕の筋	講義
24	手の筋	講義
25	上肢の筋まとめ	講義
26	胸部の筋	講義
27	腹部の筋	講義
28	背部の筋	講義
29	まとめ	講義
30	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1・2期	担当教員 松川 陸	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 解剖学②		2 単位 60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

・人体の“構造と機能”は、多くの専門用語や専門的な概念を用いて説明され記述されている。それらの専門用語や概念に習熟し、且つ、それらの用語や概念を用いて、人体の構造と機能を説明できるようになることが必要であり目標とする。

【講義概要】

- ・解剖学を学ぶ意義を理解して、人体の部位に関する正しい用語が使用できるようになる。
- ・各器官系における特徴・作用について理解し説明ができるようになる。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・解剖学 医歯薬出版
- ・イラスト解剖学:松村譲児著 中外医学社
- ・解剖生理学:高野廣子 南山堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	解剖学の意義と分類	講義
2	細胞小器官、DNA、遺伝情報	講義
3	細胞小器官、DNA、遺伝情報	講義
4	蛋白質の細胞内合成	講義
5	蛋白質の細胞内合成	講義
6	上皮組織と腺組織	講義
7	上皮組織と腺組織	講義
8	筋組織と神経組織	講義
9	中腔性器管と実質性器官	講義
10	消化器系(口腔、歯、舌、咽頭)	講義
11	消化器系(食道、胃、小腸、大腸)	講義
12	消化器系(肝臓、膵臓、胆道系)	講義
13	呼吸器系(鼻腔、喉頭、気管)	講義
14	呼吸器系(肺、縦隔、胸膜)	講義
15	まとめ	講義
16	循環器系(構造)	講義
17	循環器系(体循環と肺循環)	講義
18	循環器系(心臓の構造、心臓の弁)	講義
19	循環器系(心膜、大動脈)	講義
20	循環器系(上肢と下肢の動脈)	講義
21	循環器系(奇静脈、門膜、胎児循環)	講義
22	循環器系(リンパ管系)	講義
23	循環器系(造血、免疫系器官)	講義
24	泌尿器系(腎臓の外形、内部構造)	講義
25	泌尿器系(尿管、膀胱、尿道)	講義
26	生殖器系(精巣、精巣上体、精管)	講義
27	生殖器系(卵巣)	講義
28	生殖器系(卵管、子宮)	講義
29	内分泌系	講義
30	内分泌系	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義
33	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第3期	担当教員 西 健喜	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 解剖学⑤	1 単位	15 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師を志すにあたり、最も必要な運動器(骨・筋)の基本的な構造を理解すること。

【講義概要】

・第1、2期の解剖学①にて学習した運動器(骨・筋)の発展学習を目的とし、総復習とともにこれから必要となる内容の強化をする。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・解剖学 医歯薬出版
- ・プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 医学書院
- ・分担 解剖学 1巻(総説・骨学・靭帯学・筋学) 金原出版
- ・カパンディ関節の生理学 I(上肢)・II(下肢)・III(体幹・脊柱) 医歯薬出版

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	上肢の運動器の発展学習	講義
2	上肢の運動器の発展学習	講義
3	上肢の運動器の発展学習	講義
4	下肢の運動器の発展学習	講義
5	下肢の運動器の発展学習	講義
6	下肢の運動器の発展学習	講義
7	頭部・体幹の運動器の発展学習	講義
8	頭部・体幹の運動器の発展学習	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第3期	担当教員 松川 睦	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 解剖学⑥	1 単位	15 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

・人体の“構造と機能”は、多くの専門用語や専門的な概念を用いて説明され記述されている。それらの専門用語や概念に習熟し、且つ、それらの用語や概念を用いて、人体の構造と機能を説明できるようになることが必要であり目標とする。

【講義概要】

・第1、2期の解剖学②にて学習した内臓器系(消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系)の発展学習を目的とし、総復習とともにこれから必要となる内容の強化する。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・解剖学 医歯薬出版
- ・イラスト解剖学:松村譲児著 中外医学社
- ・解剖生理学:高野廣子 南山堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	消化器系の発展学習	講義
2	消化器系の発展学習	講義
3	呼吸器系の発展学習	講義
4	呼吸器系の発展学習	講義
5	生殖器系の発展学習	講義
6	生殖器系の発展学習	講義
7	泌尿器系の発展学習	講義
8	泌尿器系の発展学習	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1・2期	担当教員 小林 真之、越川 憲明	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 生理学①		2 単位 60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

・個体を構成する細胞の仕組みと機能を理解し、各臓器・器官・器官系の全体としての人体における役割と調節機序を理解して行く。

【講義概要】

- ・細胞小器官の機能、物質の移動原理を理解できるようになる。
- ・血液の組成と機能および循環系の構造と機能・調節機序を理解できるようになる。
- ・呼吸・消化・体温・腎臓を説明できるレベルまでしっかりと理解できるようになる。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・生理学 南山堂
- ・カラー図解 人体の正常構造と機能 日本医事新報社

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	生理学の基礎 ホメオスタシス	講義
2	体の化学的構成	講義
3	細胞の機能的構造	講義
4	細胞の物質移動	講義
5	血液の機能と組成	講義
6	血液と免疫	講義
7	血液型と血液凝固	講義
8	循環の概念 心臓の構造と心筋の性質	講義
9	心電図 不整脈 ポンプ機能	講義
10	血管系の役割 血圧	講義
11	リンパ管系機能 循環調節	講義
12	局所循環 脳脊髄循環	講義
13	ガス交換、酸素の運搬	講義
14	二酸化炭素の運搬	講義
15	まとめ	講義
16	消化器のしくみと運動	講義
17	消化器の構造と運動	講義
18	消化液の分泌	講義
19	消化と吸収	講義
20	消化管ホルモン	講義
21	肝臓と胆道系	講義
22	代謝 ビタミン	講義
23	呼吸の調節、呼吸の異常・特殊な呼吸、人工呼吸	講義
24	中間代謝、エネルギー代謝	講義
25	体温、熱の産生と放散	講義
26	体温の調節、うつ熱と発熱、	講義
27	腎の構造と機能	講義
28	糸球体ろ過、腎での再吸収	講義
29	腎での排泄、排尿の調節	講義
30	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第3期	担当教員 小林 真之、越川 憲明	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 高齢者の生理	1 単位	15 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

高齢者に関わる生理学的知識を習得する。

【講義概要】

- ・高齢者の施術にあたり、高齢者の特性を理解したうえで施術を行うことが求められる。
- ・高齢者の特性を学び、高齢者に対する身体機能維持・改善における運動訓練の影響などを学習する。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・生理学 南山堂
- ・カラー図解 人体の正常構造と機能 日本医事新報社

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	細胞、組織の加齢減少	講義
2	細胞、組織の加齢減少	講義
3	高齢者の生理的特徴	講義
4	高齢者の生理的特徴	講義
5	運動と加齢	講義
6	運動と加齢	講義
7	認知症の理解	講義
8	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1・2期	担当教員 紺野 直能	
講義区分 専門基礎分野	授業科目名 柔道①	2 単位	60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道の基本的動作を体得する。
- ・柔道整復師として当然持ち合わせるべき柔道の精神・体力・業の理合いを学び、3年間での技術習熟の到達目標を、柔道経験がなく入学した学生は初段習得に置き、有段者は己の技能を磨き必修の意味を認識し、その課業の達成に励むこと。

【講義概要】

- ・礼法を理解し、正しく実践できる。
- ・受け身の重要性を理解し、正しく実践できる。
- ・手技、腰技、足技を理解し、基本的な動作を実践できる。
- ・押さえ込みを理解し、基本的な動作を実践できる。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

【授業の特徴・形式】

- ・実技形式を基本とする。

【教科書・参考書】

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道を学習する意味。講道館柔道の歴史。基本動作。	実技
2	基本動作。柔道着の名称。あゆみ足。基本姿勢。	実技
3	基本動作。組み方。八方崩し。進退動作。	実技
4	基本動作。受け身。手技。	実技
5	基本動作。移動しながらの受け身。腰技。	実技
6	全ての受け身を色々の入り方です。手技。腰技。足技。	実技
7	各技の固定打ち込み。移動打ち込み。投げ込み。	実技
8	各技の打ち込み。約束練習。	実技
9	試合の進め方(審判規定)。打ち込み。約束練習。乱取り練習。	実技
10	勝負の判定(審判規定)。打ち込み。約束練習。乱取り練習。	実技
11	審判員の動作(審判規定)。打ち込み。乱取り練習。	実技
12	連絡技。打ち込み。乱取り練習。	実技
13	連絡技。打ち込み。乱取り練習。	実技
14	まとめ	実技
15	審判規定。打ち込み。約束練習。乱取り練習。	実技
16	審判規定。打ち込み。試合形式の練習。	実技
17	審判規定。打ち込み。試合形式の練習。	実技
18	審判規定。試合形式の練習。	実技
19	固め技の基本動作。抑え込み技。	実技
20	固め技。抑え込みの入り方。逃げ方。	実技
21	固め技。関節技。絞め技。	実技
22	固め技の乱取り。立ち技の乱取り。乱取り。	実技
23	固め技に関する審判規定。立ち技、固め技の乱取り。	実技
24	固め技に関する審判規定。総合乱取り。	実技
25	試合形式の練習。	実技
26	試合形式の練習。	実技
27	試合形式の練習。	実技
28	試合形式の練習。	実技
29	試合形式の練習。	実技
30	まとめ	実技
31	まとめ	実技
32	まとめ	実技
33	まとめ	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1期	担当教員 吉田 晋	
講義区分 専門分野	授業科目名 骨折総論		2 単位 60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・骨の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。
- ・骨折の発生機序と損傷形態との関係を解析する。
- ・骨折の治癒過程および治癒に対する影響因子との関係を学習する。
- ・一生涯の職業として柔道整復師を選択したからには、人格の陶冶と柔道整復師としての医学知識の習得および整復技術の習得は当然であるが、まずは3年後の国家試験のための基礎である骨折総論をしっかりと学び、理解して土台を築き、その上に各論を積み重ねて行く。

【講義概要】

- ・骨折の分類を理解し説明できる。
- ・骨折の症状を理解することができる。
- ・骨折の合併症・後遺症を理解することができる。
- ・骨折の治癒機転を理解し説明できる。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復・柔道整復師の沿革	講義
2	柔道整復師の業務範囲と心得	講義
3	柔道整復術の意義	講義
4	人体に加わる力について	講義
5	身体の基礎的状态	講義
6	損傷時に加わる力について	講義
7	骨の形態機能	講義
8	骨折の定義	講義
9	骨の性状による分類	講義
10	骨損傷の程度による分類	講義
11	骨折線の方法・数による分類	講義
12	骨折部と創部の交通の有無に分類、外力の働いた部位・働き方による分類	講義
13	骨折の部位・経過による分類	講義
14	骨折時の一般外傷症状	講義
15	骨折時の固有症状	講義
16	骨折時の固有症状	講義
17	骨折時の全身症状	講義
18	骨折時の併発症	講義
19	骨折時の併発症	講義
20	骨折時の続発症	講義
21	骨折時の続発症	講義
22	骨折時の後遺症	講義
23	骨折時の後遺症	講義
24	小児骨折の特徴	講義
25	小児骨折の特徴	講義
26	高齢者骨折の特徴	講義
27	高齢者骨折の特徴	講義
28	骨折の治癒経過	講義
29	骨折の治癒経過	講義
30	まとめ	講義
31	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1期	担当教員 瀧下 晃洋	
講義区分 専門分野	授業科目名 脱臼総論		1 単位 30 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・関節の構造と機能を理解し、構造上の弱点と損傷の関係を系統的に考察する。
- ・脱臼の病態・発生機序・症状等を理解し関係を解析する。

【講義概要】

- ・関節の構造と機能について概要を述べるができる。
- ・脱臼の定義・分類・症状を理解することができる。
- ・脱臼の合併症・後遺症・治癒機転を理解することができる。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	関節の構造と機能	講義
2	脱臼の概説・定義	講義
3	脱臼の発生頻度	講義
4	脱臼の性状による分類	講義
5	脱臼の程度・関節面の相互の位置による分類	講義
6	脱臼の数・脱臼部と創部・外力の働いた部位による分類	講義
7	脱臼の時期・経過・頻度と機序による分類	講義
8	脱臼の症状	講義
9	脱臼の症状	講義
10	脱臼の合併症	講義
11	脱臼の合併症	講義
12	脱臼の整復障害	講義
13	脱臼の整復障害	講義
14	脱臼の経過と予後	講義
15	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1期	担当教員 有馬 宏昌	
講義区分 専門分野	授業科目名 軟部組織損傷総論		1 単位 30 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

・関節は勿論のこと、靭帯、筋、腱、神経、血管などの軟部組織の構造的な特徴や損傷時の特徴等を系統的に考

【講義概要】

- ・関節の構造と機能について概要を述べるができる。
- ・軟部組織損傷の分類・症状を理解することができる。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	軟部組織損傷について	講義
2	関節の形態と機能	講義
3	筋組織について	講義
4	筋組織について	講義
5	関節損傷の概説	講義
6	関節損傷の分類	講義
7	筋損傷の概説 筋損傷の分類	講義
8	筋損傷の症状、治癒機序、予後	講義
9	腱損傷の概説、腱損傷の分類	講義
10	腱損傷の治癒機序、神経組織について	講義
11	神経損傷の概説、神経損傷の分類・症状・治癒機序	講義
12	神経損傷の概説、神経損傷の分類・症状・治癒機序	講義
13	四肢血管損傷 皮膚損傷	講義
14	四肢血管損傷 皮膚損傷	講義
15	まとめ	講義
16	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1期	担当教員 井口 良平	
講義区分 専門分野	授業科目名 固定法総論		1 単位 30 時間

<p>【授業の到達目標およびテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 固定法における概念、目的、種類、期間、方法の理論を学ぶ。
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 固定法の原則、目的を述べるができる。 各関節の固定部位、固定範囲、帯行方法を述べるができる。
<p>【成績評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期試験にて評価する。 評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。 単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。 具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。 出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。 100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
<p>【授業の特徴・形式】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義形式を基本とする。
<p>【教科書・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 包帯固定学 南江堂 柔道整復学 理論編 南江堂 柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	柔道整復学と固定法	講義
2	柔道整復学と包帯法	講義
3	固定の概念・目的	講義
4	固定の種類	講義
5	固定の範囲・材料	講義
6	包帯の定義	講義
7	包帯の取り外し方 基本包帯法	講義
8	環行帯 螺旋帯	講義
9	蛇行帯 折転帯	講義
10	亀甲帯 麦穂帯	講義
11	肩関節の包帯の理論	講義
12	肘・手関節の包帯の理論	講義
13	膝関節の包帯の理論	講義
14	足関節の包帯の理論	講義
15	まとめ	講義
16	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第1・2期	担当教員 梅本 彰吾	
講義区分 専門分野	授業科目名 治療法総論		2 単位 60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・柔道整復における施術に必要な概論を学習し、柔道整復実技に応用する知識を習得する。
- ・日常の診療時に必須行為である評価について体系的に学習し習得する。
- ・柔道整復術の治療行為の概要を体系的に学習し習得する。

【講義概要】

- ・評価における問診、視診、触診、動的評価、計測評価、神経学的評価、徒手検査法について意義、目的を理解する。
- ・柔道整復術である整復、固定、後療法の意義、目的を理解する。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	評価の概説	講義
2	評価の目的・手順・種類	講義
3	問診について	講義
4	視診について	講義
5	触診について	講義
6	動的評価について	講義
7	計測評価について	講義
8	神経学的評価について	講義
9	各種徒手検査法について	講義
10	評価の時期による分類について	講義
11	施術録について	講義
12	施術録について	講義
13	骨折の整復法について	講義
14	骨折の整復法について	講義
15	まとめ	講義
16	軟部組織損傷の初期処置について	講義
17	軟部組織損傷の初期処置について	講義
18	捻挫の初期処置について	講義
19	捻挫の初期処置について	講義
20	筋・腱損傷の初期処置について	講義
21	神経・血管損傷の初期処置について	講義
22	固定法の概要、目的、種類について	講義
23	手技療法について	講義
24	手技療法について	講義
25	物理療法について	講義
26	物理療法について	講義
27	運動療法について	講義
28	運動療法について	講義
29	指導管理について	講義
30	指導管理について	講義
31	まとめ	講義
32	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第3期	担当教員 大木 正浩、初森 裕隆、福岡 孝俊、梅本 彰吾、荒井 一彦	
講義区分 専門分野	授業科目名 基礎柔道整復学特講		3 単位 90 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

- ・1年生で習得した柔道背復学の内容を総合的に発展的に学習し、2年生での学習の準備を行う。
- ・2年生時の臨床実習における学外実習への臨床実習前の研修・試験を実施する。

【講義概要】

- ・体表解剖を理解し、実践できるようにする。
- ・計測評価を理解し、実践できるようにする。
- ・動的評価を理解し、実践できるようにする。
- ・臨床柔道整復学①で習得した頭部、体幹損傷の発展学習を行う。
- ・臨床柔道整復学②で習得した肩甲帯損傷の発展学習を行う。
- ・臨床柔道整復学③で習得した骨盤・大腿部損傷の発展学習を行う。
- ・柔道整復実技②で習得した肩部の損傷の発展学習を行う。
- ・2年生時の臨床実習のための臨床実習前研修を実施しその可否を判断する。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

【授業の特徴・形式】

- ・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂

【 講義の内容・日程 】		
回	講義内容	備考
1	頭部、体幹部の骨の触診	講義
2	頭部、体幹部の骨の触診	講義
3	上肢の骨の触診	講義
4	上肢の骨の触診	講義
5	下肢の骨の触診	講義
6	下肢の骨の触診	講義
7	頭部、体幹部の筋の触診	講義
8	頭部、体幹部の筋の触診	講義
9	上肢の筋の触診	講義
10	上肢の筋の触診	講義
11	下肢の筋の触診	講義
12	下肢の筋の触診	講義
13	頭部、体幹部のROM測定	講義
14	上肢のROM測定	講義
15	下肢のROM測定	講義
16	頭部、体幹部の計測測定	講義
17	上肢の計測測定	講義
18	下肢の計測測定	講義
19	上肢のMMT	講義
20	上肢のMMT	講義
21	下肢のMMT	講義
22	下肢のMMT	講義
23	各関節、靭帯の触診	講義
24	各関節、靭帯の触診	講義
25	頭部、体幹損傷の発展学習	講義
26	頭部、体幹損傷の発展学習	講義
27	肩甲帯損傷の発展学習	講義
28	肩甲帯損傷の発展学習	講義
29	肩甲帯損傷の発展学習	講義
30	肩甲帯損傷の発展学習	講義
31	骨盤・大腿部損傷の発展学習	講義
32	骨盤・大腿部損傷の発展学習	講義
33	肩部の損傷の発展学習	講義
34	肩部の損傷の発展学習	講義
35	肩部の損傷の発展学習	講義
36	肘部の損傷の発展学習	講義
37	肘部の損傷の発展学習	講義
38	肘部の損傷の発展学習	講義
39	膝部の損傷の発展学習	講義
40	膝部の損傷の発展学習	講義
41	膝部の損傷の発展学習	講義
42	足部の損傷の発展学習	講義
43	足部の損傷の発展学習	講義
44	体幹部の損傷の発展学習	講義
45	体幹部の損傷の発展学習	講義
46	股関節の損傷の発展学習	講義
47	股関節の損傷の発展学習	講義
48	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第2期	担当教員 吉田 晋	
講義区分 専門分野	授業科目名 臨床柔道整復学①	1 単位	30 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要となる頭部、体幹部の骨折や脱臼・軟部組織損傷を学習し、必要となる知識を習得する。

【講義概要】

・頭部、体幹損傷の重大性を理解し、適切な応急処置及び対応ができる様にし、発生機序と臨床所見から肋骨骨折・脊椎骨折の存在を診断でき、適切な対応ができる能力を養う。

・頭部、体幹損傷の発生機転・症状・施術法ならびに合併症や予後についての概要を述べる事ができる。

【成績評価方法】

・定期試験にて評価する。

・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。

・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。

・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。

・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。

・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

・柔道整復学 理論編 南江堂

・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	頭蓋冠骨折	講義
2	頭蓋底骨折、顔面頭蓋骨折	講義
3	顎関節脱臼	講義
4	顎関節脱臼	講義
5	頭部・顔面部の軟部組織損傷	講義
6	上位頸椎骨折	講義
7	中・下位頸椎骨折、頸椎脱臼	講義
8	頸部の軟部組織損傷	講義
9	頸部の注意すべき疾患	講義
10	肋骨骨折、肋軟骨骨折	講義
11	肋骨骨折、肋軟骨骨折	講義
12	胸骨骨折、胸椎骨折、胸椎脱臼	講義
13	胸背部の軟部組織損傷、腰椎骨折	講義
14	腰椎脱臼、腰部の軟部組織損傷	講義
15	まとめ	講義
16	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第2期	担当教員 有馬 宏昌	
講義区分 専門分野	授業科目名 臨床柔道整復学②		1 単位 30 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要となる肩甲帯の骨折や脱臼・軟部組織損傷を学習し必要となる知識を習得する。

【講義概要】

・各々の損傷の発生機序から症状、治療法、合併症に至るまで詳細に把握し、臨床現場で対応できる知識と技能を習得する。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	肩関節の解剖	講義
2	肩関節脱臼の発生機序・転位・症状・合併症・治療法	講義
3	肩関節脱臼の発生機序・転位・症状・合併症・治療法	講義
4	肩関節脱臼の整復・固定	講義
5	肩関節脱臼の整復・固定	講義
6	肘関節の解剖	講義
7	肘関節脱臼の発生機序・骨片転位・症状・合併症・治療法	講義
8	肘関節脱臼の発生機序・骨片転位・症状・合併症・治療法	講義
9	肘関節脱臼の整復・固定	講義
10	肘関節脱臼の整復・固定	講義
11	手関節部 手部の解剖 手関節・手根骨脱臼の発生機序・転位・症状	講義
12	手関節・手根骨脱臼の合併症・治療法	講義
13	指関節の発生機序・症状・治療法等	講義
14	指関節の整復・固定	講義
15	まとめ	講義
16	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2023 年度	1年生 第2期	大木 正浩	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床柔道整復学③		1 単位 30 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要となる骨盤、大腿部の骨折や脱臼・軟部組織損傷を学習し必要となる知識を習得する。

【講義概要】

・各々の損傷の発生機序から症状、治療法、合併症に至るまで詳細に把握し、臨床現場で対応できる知識と技能を習得する。

・下肢の脱臼についての発生機序、症状、合併症、治療法、予後に関しての詳細に理解する。

【成績評価方法】

・定期試験にて評価する。

・評価の観点、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。

・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。

・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。

・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。

・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

・柔道整復学 理論編 南江堂

・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	股関節部解剖・特徴・分類	講義
2	股関節後方脱臼① 発生機序 症状 施術法	講義
3	股関節後方脱臼② 発生機序 症状 施術法	講義
4	股関節前方脱臼・中心性脱臼 発生機序 症状 施術法	講義
5	股関節脱臼整復法実技	講義
6	膝蓋大腿関節 解剖・特徴・分類	講義
7	膝蓋骨側方脱臼 発生機序 症状 施術法	講義
8	膝蓋骨脱臼整復法・固定法	講義
9	膝関節部解剖・特徴・分類	講義
10	膝関節前方脱臼・後方脱臼 発生機序 症状 施術法	講義
11	足関節及び足部の脱臼① 分類 発生機序 症状 整復法 固定法	講義
12	足関節及び足部の脱臼② 分類 発生機序 症状 整復法 固定法	講義
13	足関節脱臼骨折の画像による臨床報告	講義
14	距腿関節脱臼 発生機序 症状	講義
15	まとめ	講義
16	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第3期	担当教員 煙山 奨也	
講義区分 専門分野	授業科目名 物療機器の取扱い		1 単位 15 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要となる物理療法について学習し必要となる知識を習得する。

【講義概要】

・柔道整復領域で使用する物理療法等の原理、作用などを学び、その適切な取り扱いができるように学習する。
・不適切な使用、副作用などについても十分に理解し、医療事故を防ぐための知識も習得する。

【成績評価方法】

・定期試験にて評価する。
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】

・柔道整復学 理論編 南江堂
・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	物理療法の概論	講義
2	物理療法の概論	講義
3	電気療法について	講義
4	電気療法について	講義
5	温熱療法について	講義
6	温熱療法について	講義
7	光線療法、寒冷療法について	講義
8	光線療法、寒冷療法について	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第2期	担当教員 初森 裕隆	
講義区分 専門分野	授業科目名 柔道整復実技①		1 単位 30 時間

当該教員の実務経験:柔道整復師取得後接骨院勤務経験・専科教員取得

【授業の到達目標およびテーマ】

・1学年第1期にて学習した固定法総論の内容を踏まえた固定実技を行い、その技術を習得する。

【講義概要】

- ・包帯の基本帯行法を身につける。
- ・各関節の基本包帯法を身につける。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

【授業の特徴・形式】

- ・実技形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・包帯固定学 南江堂
- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	環行帯 螺旋帯 蛇行帯	実技
2	折転帯 亀甲帯 麦穂帯	実技
3	肘関節部の包帯	実技
4	膝関節部の包帯	実技
5	足関節部の包帯	実技
6	手関節部の包帯	実技
7	股関節部の包帯	実技
8	肩関節の包帯	実技
9	鎖骨の包帯 デゾー包帯	実技
10	鎖骨の包帯 ヴェルポー ジュール包帯	実技
11	鎖骨の包帯 ヴェルポー ジュール包帯	実技
12	頭の包帯	実技
13	顎の包帯	実技
14	指の包帯	実技
15	まとめ	実技
16	まとめ	実技
17	まとめ	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔整トレーナーコース(3年制)	昼間部(午後)
開講年度	履修課程	担当教員	
2023 年度	1年生 第2期	瀧下 晃洋 大林 典弘	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技②		1 単位 30 時間

当該教員の実務経験:柔道整復師取得後接骨院勤務経験・専科教員取得

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師として必要かつ高頻度に遭遇する肩部の骨折や脱臼、軟部組織損傷を学習し必要となる知識・技術を習得する。

【講義概要】

・上腕骨骨折についての発生機序、症状、合併症、治療法、予後に関する詳細に理解し、整復・固定法を実践的に習得する。

【成績評価方法】

- ・定期試験にて評価する。
- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・単元や各授業の学習過程で、評価の3項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
- ・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
- ・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
- ・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

・実技形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	上腕骨近位端部骨折	実技
2	上腕骨近位端部骨折	実技
3	上腕骨近位端部骨折	実技
4	上腕骨近位端部骨折	実技
5	上腕骨骨幹部骨折	実技
6	上腕骨骨幹部骨折	実技
7	上腕骨骨幹部骨折	実技
8	上腕骨顆上骨折	実技
9	上腕骨顆上骨折	実技
10	上腕骨顆上骨折	実技
11	上腕骨外顆骨折	実技
12	上腕骨外顆骨折	実技
13	上腕骨内側上顆骨折	実技
14	上腕骨内側上顆骨折	実技
15	まとめ	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程 柔道整復専門課程	開講学科 柔道整復科	コース 柔整トレーナーコース(3年制)	昼夜別 昼間部(午後)
開講年度 2023 年度	履修課程 1年生 第2・3期	担当教員 紺野 直能、井口 良平、村越 嵩紀	
講義区分 専門分野	授業科目名 臨床実習(1年生)	1 単位	45 時間

当該教員の実務経験: 柔道整復師取得後接骨院勤務経験・専科教員取得

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際の接骨院で行われる検査・処置を理解する。

【講義概要】

- ・柔道整復師の立場を理解できる。
- ・衛生管理の概念を説明でき、清潔操作・手洗いの実践ができる。
- ・検査や処置の概要を説明できる。
- ・体表解剖を理解しその内容を説明できる。
- ・2年生時の外部実習を踏まえた予備的知識や技術を習得する。

【成績評価方法】

- ・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の3項目とする。
- ・学習過程で学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と出席状況によりまとめる。
- ・実習後のレポートで評価する。
- ・出席率、実習態度、レポートならびに臨床実習前施術試験等で総合的に判断し、ABC評価で判定する。(Cは不合格)

【授業の特徴・形式】

- ・実技形式を基本とする。

【教科書・参考書】

- ・包帯固定学 南江堂
- ・柔道整復学 理論編 南江堂
- ・柔道整復学 実技編 南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	実施日	講義内容	備考
1	第1～4日 目	物理療法 (理論と機械操作)	実技
2		手技療法 (基本のみ)	実技
3		医療面接	実技
4		MMT評価	実技
5		体表解剖	実技
6		基本包帯法	実技
7		再検時の問診	実技
8		ROM評価	実技
9		整復固定補助	実技
10		立ち会った患者の傷病ふりかえり	実技
11		ロールプレイ	実技
12	第5日目	総まとめ	実技